

一般社団法人日本相続学会 第一回研究大会報告集

テーマ「円満かつ円滑な相続とは」

2013年11月15～16日

中央大学 駿河台記念館

開会式 15日13:30～14:00



主催者挨拶



来賓 右山昌一郎様



来賓 三橋博己様

御礼

本学会設立後、初めての研究大会を多くの皆様と共に開催できたことをとても嬉しく存じます。皆様のお力添えに感謝いたします。

“円満かつ円滑な相続とは”をテーマに掲げた今回の研究大会は、議論のベースとして、まず人間の営みである相続を、どのように捉えるのか。そのために必要な視点についてご示唆をいただきたく、姜尚中先生をお招きすることになりました。姜先生におかれましては、事前に十分にご準備くださり、素晴らしいご講演をいただきました。そして参加者の心を揺さぶりました。

①なぜ、円満かつ円滑な相続が求められるのか。②現行制度の中で、円満かつ円滑な相続とするために、様々な実務者と研究者が横断的に集まる意義と、いかに工夫できるかというチャレンジ。③未来を語る責任を持つには、現行制度を越え、政策提言を見据えなければならない。④相続を考えることは、自らの死を考えることであり、そのこと自体が生きていることを考えることである。そして生き様の集大成が自らの相続である。等、様々な視点から二日間にわたり積極的な議論が交わされました。また、新たに「心の相続」というキーワードをいただきました。

この度の大きな成果を、さらに進化する力として結集し、益々努力を重ねる所存でございます。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

一般社団法人日本相続学会 会長 伊藤久夫

(アンケートから)

- ・学会設立の趣旨がよくわかり、素晴らしいなと感じた。
- ・成立過程が分かった。今までは相続を扱っていないので関心がなかったが、今後の社会状況をみると、身近に出てくる心の財産の浄化は、相続税が課税されなくても大きな課題であると感じた。
- ・相続学会の成り立ち、目的が分かり、本大会の意義も理解できた。
- ・著名な方のご挨拶が聞けて光栄です。設立の経緯や志などを伺い、これからの日本の相続問題をより身近に考える場が増えていくと感じ、ますます仕事の充実感を感じた。
- ・伊藤会長の熱い願いのこもった語りと来賓のお二人の祝辞の趣意が「心の相続」という点で重なったことが、とても印象的であった。



“円満かつ円滑な相続”とは

基調講演 15日14:00～15:00

テーマ「人生の意味と使命」

●講演: 姜 尚中氏(聖学院大学 全学教授)

幸福とは何か、幸せな相続とは。バトンタッチする側とされる側の姿。語り継ぐものは何なのか。伝えたい気持ちがあるのか。何を伝えたいと思っているか。漱石は「こころ」の中で人が人を信じる、信じあえるか、性悪と性善について深く表現している。

有形のheritage(財産)と無形のtestament(遺言) 語り継ぐtestamentがないままheritageだけが残る現象に翻弄されず、最大の相続は生命であるところに、真理があるのではないか。



講演 姜 尚中様

(アンケートから)

- ・相続は、自分が受け取るだけのニュアンスで捉えがちだが、自分が「次へ伝える」という意識の大事ということを再認識した。
- ・相続とは、金・物だけではなく、精神的な「心」が重大な意味を持つということが心に強く響きました。
- ・すばらしい講演、ありがたく拝聴させていただき、ありがとうございました。これが正に原点であり、出発点であると思いました。
- ・非常に濃い内容だった。夏目漱石の「こころ」の話が印象的でした。
- ・「こころ」の内容は、一つの小説から相続、遺言などを紹介され、興味深いと感じた。財産の海外移転、民法の改正、相続税法の改正と、今まで以上に複雑になると思った。
- ・命が伝わっていく最大の相続を自分でやっていきたい。
- ・「こころ」をもう一度読み直してみようと思いました。大変心を打たれる講演でした。
- ・文学の切り口から相続の話となり、大変興味深く聞きました。「相続とは命をつなぐこと」という言葉を他の方にも伝えていきたいと思います。命をつなぐ「心」をつなぐという話が良かった。

大会シンポジウム 15日15:20～17:30

テーマ「相続する力」

●シンポジスト

- : 姜 尚中氏(聖学院大学 全学教授)
- : 常岡史子氏(横浜国立大学大学院 教授)
- : 野口賢次氏(相続アドバイザー)
- : 平川 茂氏(税理士・相続学会副会長)
- : 吉田修平氏(弁護士・相続学会副会長)

コーディネーター

- : 伊藤久夫氏(日本相続学会会長)



(アンケートから)

- ・3つのステージに分けて相続のポイントを説明していただけて理解が深まった。相続の際に出る姿が、その人の本質、親の子育ての集大成という野口先生のお話に心打たれました。
- ・寄与に対する問題意識が必要。争族対策に重要。
- ・実際の話に沿ったもので、説得力があった。また、常岡先生の問題意識は、共感できた。
- ・相続する力の源になる事柄について、専門的な立場から様々な示唆をいただいたように思う。
- ・相続の難しさ。権利と義務の関係を考えさせられるきっかけとなって良かった。テクニカルより、人間力かと思う。
- ・相続発生の時には、すでにそこには「介護の現場」は無い、正にそうだと実感した。いかにそれを介護していないものに伝えるか…。これができれば寄与分のもめ事もかなり減ると思った。
- ・平等と公平の違いに気づきました。善悪、正邪、理非曲直を子供へ教育する必要があると痛感しました。今の日本はもっとリベラルアーツの学習が必要です。

事例発表 16日9:00～10:00

●全体進行：平川副会長

□事例発表

：A「生命保険信託」池内久徳会員（生命保険）

：B「『相続させる』旨の遺言と代襲相続」竹内裕詞会員（弁護士）

：C「成年後見制度と相続」吉川寿一会員（税理士）

：D「売却依頼中に相続発生」早川光生会員（不動産）

（早川）事例発表はいろんな業種の視点から意見交換ができ、発表者も同席者もお互いに勉強（参考）になる良い機会でした。これから是非続けてもらいたいと思います。（出来ればもう少し時間が欲しかった）

（竹内）遺言により円満相続を実現するには、推定相続人・受遺者等の死亡や経済状況、遺言者との関係の変化、遺言者の資産の変動等、将来の変化を予想して遺言を作成したり、状況の変化に合わせて遺言を作り直す必要がある。

我々専門家は、いったん遺言を作成すれば任務完了ということではなく、定期的に連絡を取り、遺言を修正する必要があるか確認する心配が必要である。

（吉川）任意後見における「療養看護」「財産管理」の役割はご説明できたと思う。今後も新しい任意後見の活用方法を提案していきたい。参加された皆様からご意見等頂き感謝いたします。

（池内）税理士、弁護士、司法書士、不動産業等々の各業界の方々から、さまざまな切り口にて積極的にご質問をいただいたことが、私にとって大変貴重な経験になりました。そして、相続における生命保険信託という手法がほとんど認知されていないことが、よくわかりました。信託に生命保険特有の財産創出機能を加えることで、信託の効果をより大きくすることが出来ることを、改めて確認できました。

（アンケートから）

・近い距離で話を聞くことができ、疑問をぶつけやすかった。・具体的な事例で、大変参考になりました。・もう少し時間が必要。・相続の問題点が理解できた。



研究発表 16日10:00～11:30

●全体進行：吉田副会長

□税務部門

＜円満な二次相続をめざして＞・相続は女性の課題・

池畑芳子（税理士）・松尾悦子（税理士）・富田淑子（税理士）・鶴岡準浩（司法書士）・友田 順（弁護士）・鈴木崇裕（弁護士）

・一次相続が起こった時点で、残された配偶者の老後の生活費や生活環境に対する問題意識を持つことが大切である。介護が必要となった場合、子どもに看てもらえるのか？老人ホームやサービス付き高齢者向け住宅への入所を考えるのか？成年後見制度の利用等の検討などの意識を持つことが大切である。

□法務部門＜被相続人の意思と遺留分の衝突＞

吉田修平会員（弁護士）・常岡史子会員（横浜国立大学）・森川紀代（弁護士）・沼井英明（弁護士）

本事例のような個人レベルで事業を行っている場合と、会社で事業を行う場合とで、事業の円滑な承継によって実現できる経済的合理性の点で差はないと思われる。ゆえに、被相続人の意思を、死後も実現するという目的を「是」とするのであれば、個人のレベルにおいても遺留分の特例を制度して設ける必要があるのではないか。

（アンケートから）

・論点整理がよくされていると思います。・事例内容がとても実践的また、参考になる部分が多く、今後、自分のことに役立てたいと思います。・大変具体的な事例で、勉強になりました。・詳細な問題考察ができていて、良かったと思います。



“円満かつ円滑な相続”とは

情報交流会 15日18:00～

姜尚中先生にも参加いただき、平川副会長の乾杯でスタート。終始賑やかに歓談と名刺交換が続きました。

●相続クイズ大会は、法務問題、税務問題、不動産問題が各々3問と生命保険問題1問の10問。テーブルごとに相談しながら答え、正解数が最も多いテーブルの皆さんが優勝。最後の問題が一番難しかったようです。

●締めめのあいさつ：吉田副会長：こんなにたくさんの方が最後まで残っていただいた情報交流会は珍しいのではないかと。参加された皆様の本学会への期待を感じます。そして社会の期待を感じます。益々頑張りましょう。

(アンケートから)

- ・満足しました。お料理もおいしかったです。生保のクイズが、他業種の方々には「難しかった」と知り、生保業界としても、もっと広報活動が必要だと思いました。
- ・事務局から、人を紹介する時間があると良い。



閉会式 16日11:30～

●平川忠雄様(本学会顧問・日本税務会計学会前会長) 本学会は、相続に関わる様々な実務者と研究者が集まり、「円満かつ円滑な相続」を追及するところにある。益々の活躍を期待します。

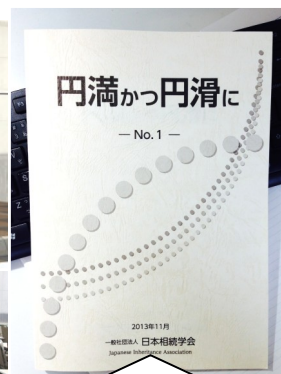
●中島研究大会実行委員長

多くの皆様の熱意と情熱とご協力によって開催できたことを感謝します。来年も、ぜひ研究大会で会いましょう。



実行委員会

スタッフ役割分担	
統括	伊藤
実行委員長	中島
プログラムディレクター	池内
会計	池畑
会場係	田淵・増山
受付	宮田・富田・松尾・池畑
報道対応	榊原・吉田・平川
記録(ビデオ・写真)	鶴岡
講師アテンド	神崎・松原
総合司会	森川
情報交流会司会	阿部



当日販売
された
会誌
第1号

10月24日時点で27名の申込でしたが、皆様のご協力で170名の参加になりました。厚く御礼申し上げます。実行委員会のメンバーの初顔合わせは、当日の開始2時間半前。A3一枚の進行表で2日間の進行を確認し、すぐに準備に。なぜこんなマジックのようなことが出来たのか。それは、委員の皆様の熱い情熱と、それを育てたメールの力によるところが大きいです。準備のやりとりを委員の皆様にCCしながら進めてきた為、情報の格差がない状態でスタートすることができました。皆様のお蔭で次回に向けて素晴らしいノウハウが集積できました。実行委員会の皆様、お疲れ様でした。また支えて下さった多くの皆様、ありがとうございました。

一般社団法人日本相続学会

101-0021 東京都千代田区外神田6丁目9番6号 平川会計パートナーズ内

FAX 050-3730-8835 E-mail info@souzoku-gakkai.jp URL <http://www.souzoku-gakkai.jp>